

迷える者を見守り、人生のあるべき方向に導いてくださる尊い存在)を心に思い、感謝の気持ちで過ごすならば、自然に「私」という執着心は薄まっていき、「私」よりも「他」を思えるような心持ちになるはずです。

身密とは、私たちの身体のおこないを仏さまのそのように整えること。それは仏さまを思い、慕う心をもって行うする合掌(手を合わせること)が第一歩です。

右の手のひらは仏様、左の手のひらは私たちを意味します。そして、手を合わせ結ぶ合掌のサインは、仏さまがいつも私たちに寄り添い、力を与えてくださることを示しています。

日々に合掌するときには、仏様を思い、合掌の意味するところのように、仏さまと私がつになるように心静かにイメージしてみてください。そして、少しだけ「私」を忘れてみてください。きつと心に安らぎを感じることができずです。

弘法大師ご生誕 千二百五十年記念奉修 境内整備事業のご報告

令和5年の弘法大師ご生誕1250年記念にむけて平成29年度から6年にわたり、進めてきた境内整備事業も大詰めです。事業の三本柱、

- ① 墓地整備事業
- ② 参道・境内整備事業
- ③ 鐘楼建築

①②を完了し、お盆明けから③の建築工事が開始されます。

このたびの境内整備事業への自由寄付は、令和4年7月31日までに延べ264名の方からご寄付をいただき、合計1650万7千円となりました。

おかげさまで今日まで順調に事業を進めることができ、境内も刷新され、多くのみなさまにお喜びいただいております。心より御礼申し上げます。

境内に新築されたあずま屋に、このたびの報酬事業に3万円以上のご寄進をお寄せいただいた方々のお名前を掲示してございます。記念の梵鐘に名入れをいたしますのでお名前に誤りがなければご確認いただけます。

ご寄付の受付は8月末日までとなっております。この勝縁にどうぞ境内整備にご協力いただければ幸いです。



あずま屋に梵鐘の名入れご芳名をお示してあります。お間違いのないかご確認ください。